

和文教科書

徒然草如字

二卷

B263 友校師福
3163

書 圖

部 語 目

No

九 十 五 月 二 日	番 号 一 二	册 数 七 一 二
----------------------------	------------------	-----------------------

25025

T 1A1

10

Sh 51

和文教科書二之卷

美濃 源 歌子 編輯

徒然草ぬきほ

寺院の号、いぬよりづれ物をも、名をつくるこ
 と、昔の人、いぬも求めむ、たゞありのまゝに、
 やもくつけくるあめ、いぬより、いふく、書ど、あ
 をあ、いぬと、いぬ、やうい、いぬ、いぬ、
 つり、人の名も、いぬ、いぬ、いぬ、いぬ、
 ハ、益なき事、いぬ、いぬ、いぬ、いぬ、
 と、いぬ、いぬ、いぬ、いぬ、いぬ、いぬ、

図書 和図書 遡



福岡教育大学蔵書

事ありとぞ。

鯉のあつもの、くひたるは、鬚買をけむとあんにかはも、つくる物あれば、ねどりたる物こそ。鯉づりこそ、清前まで、きくく物あれば、かんとあき、巢あれ、鳥よハ、雉、あき物なり。雉、松茸などハ、法湯殿のよにかかりたるも、くつかゞ。其外ハ、心うき事あり。中宮の清方の法湯殿のうへに、くらみ柵、扇のみえつるを、物入道殿の清覚、とて、ゆきせ給ひて、やがて法文まで、かゝやうの物ぞあぐり、とて、あまき法柵よかてと

ぶらひーことみあ〜
はらぐーきんぶら〜はぬあよこそあどやれ
たりたり。

豊

人の方純ハ、文あき〜のよ〜、聖の教をまねるを、第一とせ。次ハ、よ〜事、む〜こと〜あくと、も、ききあ〜。よ〜。よ〜。同よ、便あ〜。ためあり。次ハ、醫術をま〜。よ〜。よ〜。や〜い、人をたき、忠孝のつとめも、醫術もあ〜。ある。らむ。次に、対馬にの事、六、七、おせり。はこれきうか、あ〜。文武醫の、職をかて〜ある

此集録御書札

べし。いふに。口をさし。て。ま。げ。り。ある。人。とい
 ふ。め。か。し。む。次。は。食。の。人。の。天。あり。ま。味。ほ。い。を
 調。へ。志。け。る。人。大。なる。徳。を。も。と。め。次。は。細。工。より
 づ。は。要。お。か。り。げ。ほ。う。の。事。も。多。難。か。君。子。の。恥
 と。と。ら。ん。る。り。詩。歌。を。た。く。に。ま。け。は。妙。なる。か
 幽。玄。の。道。君。臣。と。れ。ま。お。も。く。も。と。り。ん。ど。も。今。の
 よ。も。さ。し。し。ま。も。ら。て。ま。を。治。む。こと。や。う。や。う
 だ。ら。う。ある。に。ほ。し。し。金。の。も。ろ。れ。た。れ。ども。鉄。の
 益。は。ほ。し。し。ま。も。ら。て。ま。を。治。む。こと。や。う。や。う。

⑤ 喜望のこまをふりてし事なるはかしの御事なり

也。僻事も人をもいふべし。國の為君のため
 やむことをもえむ。て。た。も。ま。げ。り。事。お。ほ。い。も。あ。ら
 べ。の。い。ま。も。い。く。ば。く。あ。ら。じ。あ。も。ら。べ。し。人。の。力
 に。や。む。こ。も。ま。え。む。て。い。い。も。あ。む。可。第。一。は。食。物。
 第。二。は。ま。つ。る。物。第。三。に。居。存。あり。人。間。の。大。事。の。三
 つ。は。過。ぎ。飢。む。寒。か。ら。む。以。雨。に。ま。も。ら。し。む。し。む。
 して。閑。ろ。ま。ま。ら。し。む。樂。み。と。も。但。人。も。病。あり。病。
 病。に。ま。も。ら。れ。ぬ。れ。が。其。愁。い。思。ひ。が。し。し。醫。生。瘡。
 と。ま。も。ら。し。む。し。む。事。も。ま。も。ら。し。む。の。事。お。め。え。
 ぐ。な。も。ら。し。む。し。む。事。も。ま。も。ら。し。む。の。事。お。め。え。

口をさし

ま。四つのは、いふまでもなく、誰れの人か、たゞとせ
ん。

●

雅房大納言ハ、おかしこく、よき人にて、大将も、
あるさげやとおぼしき、院の道習ある人、只
今、あさましき事を、見せりつとやせられ、
何事ぞと、おぼしき、雅房ハ、おぼしきは
んとて、いささか、犬の、足を、きり、侍りつる、中が
きの、あまより、見侍りつとやせられ、
いづくに、いづくに、たゞ、日暮の、清氣をも、

い、昇進も、志給ハ、おかしこく、いづくの、人、雁鳥をも
たれより、けるハ、思ひ、おぼしき、犬の、足ハ、跡、
ことあり、虚言ハ、不便、おぼしき、か、いづくに、
せ給いて、いづくに、君の、清心ハ、いづくに、
よき、事あり、犬か、いづくに、いづくに、
め、たゞ、おぼしき、あまより、いづくに、畜生
残善の、たゞ、いづくに、萬の、鳥獸ハ、いづくに、
心を、おぼしき、おぼしき、いづくに、
か、いづくに、夫婦を、おぼしき、いづくに、
いづくに、いづくに、いづくに、

飯に人よりもまじりて甚。かれより一々
あつへ命をうばはんこといふてあつし
らぞらん。まづて一切の有情をえて慈の心
うらん人倫よし。

△(皇)

顔田ハ志人ノ勞をほごしとありまづ
をくしめ物をまじぐる事いかり民の志
をもうばぶかくじ。又いとまき子きす
おどいはいはづしめて眞なる事あり。お
しんまことなるねがこももあつし思
どまにあき心よきめにまみておろくはづ

うくあつし思ひまこと切ある
れをふかきて眞なる事慈の心あり
とまき人のよりいらいりありまづ
おも皆虚妄なれども誰れも実者の相を
る。あきやぶるより心なき人
そこある事あき病をうくことま
心よりうく外よりあつ病をうく
みて汗をあびるよかき事あり
且あつし心よきことあつし汗を
心のきこえあり

心よきことあつし

額をかきて、白頭の人とあり。なめ。一。あつた。あ
らじ。

皇
物ふあ。そほぢ。おのれをまげて。人。あつた。あ
我弟をのら。う。て。人。を。先。よ。も。ら。う。き。い。つ。た。よ。
ろ。づ。れ。遊。び。も。勝。負。を。の。む。人。の。勝。て。興。あ。
ん。た。め。な。め。お。の。れ。が。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。
ろ。ろ。づ。れ。ま。げ。て。興。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。
ら。れ。ら。り。我。ま。け。て。人。を。よ。り。こ。し。て。思。は。
ば。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。
た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。

り。び。し。ま。さ。中。に。な。ま。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。
あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。
皇。又。れ。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。
て。な。づ。き。恨。み。を。む。ま。げ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。
そ。い。さ。こ。の。む。失。る。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。
只。学。同。一。て。其。智。を。入。よ。ま。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。
道。を。ま。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。
あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。
あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。
あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。
の。ら。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。あ。つ。た。

カインキ...

まづづーきものハ射きもろて礼をいたる者
ハカきもつて礼をいす。あのづゝおこききりておまよ
ばざる時ハ速にやむを誓ひつゝ。申さるるハ
らんハ人のあやまりあつ。おまよしづゝしてきい
てほげむハたのれがあやまりあつ。まづづーと
ふきまろてんハ。盗みどかりたよりて、ふきをま
らざれば病をうく。

くもーあつ志げ故法皇の御前よとづゝいて、供
侍のまわりくるよ、今まあつ侍、供侍の色を
文字も、功徳も、たづゝとて、そらに中侍づゝ

本草に、御覽どあはせられ侍れか。いとつも、
あやまり侍らどと、りける時、も、六条故内府ま
あり給いて、有房ついでよものあつ侍らんと
て、先志ほとつ、文字づゝ、これの篇づゝ、侍ら
んと、どほれたりけるに、出篇よと、りたりけれハ、
老のほどまていあらとれよたり。今ハ、と、ぼろり
よてら、へ、ゆ、きと、ころあ、と、り、れ、る、に、
どよみるありて、まのづゝ。

花ハ、さかりに、月ハ、くもあつ、まの、みる、物、も、
雨ハ、ひいて、月ハ、こい、たれ、こめて、春の、ゆく、へ

きつぬもなほあはれも情ふりてあはれも
どの末末ぢりもあはれなる庭をぞしをみごころ
にほふれ歌のこもばあもあはれ見にまふれり
くまにはやくもあはれにうれづともさける事
ありてまかしてまごもかふるは花をみてとい
へるにだもゆることとあはれのちり月れうづ
くもあはれあはれいこととあはれいこととあ
たぐあはれ人ぞけえむ被えむとちりまふり今
みごころあはれあはれいこととあはれいことと
こそわづけれ男女の情もいさよあはれいさよ

バリの物もあはれあはれやみうらもあはれいあ
ある契をかこらあはれあはれいあはれいあ
き雲居をたもいやりあはれあはれいあはれいあ
あはれいあはれいあはれいあはれいあはれいあ
子里の外もあはれあはれいあはれいあはれいあ
あはれいあはれいあはれいあはれいあはれいあ
ういてあはれいあはれいあはれいあはれいあ
まのかげあはれいあはれいあはれいあはれいあ
なくあはれいあはれいあはれいあはれいあはれいあ
あはれいあはれいあはれいあはれいあはれいあ

心あくるなもろふと都のしづかほの
て月花をびとのめとてみるもの
まきまきても月のよりのねやの
もふふしきつとたのちうあ
いといよよいけのまにのみえ
も、おほいなるさかひのあま
ろづいもて真ざれた花のとも
り、あつらめもせむまもりて
て、おほいなるさかひのあま
ま、おほいなるさかひのあま
ま、おほいなるさかひのあま

どろろづの物ぞそあづらみるこ
のんれおみーとさかいとめづ
いとわそーとほどの、棧敷不
るやうてさけの、物くひ、圍
て、棧敷もきくをおきたれ、
いよ時よおの、きまつ、
は、りりのほりて、たろぬ、
おーあいつ、一事も、
ありが、かりと物、
バ、又、又、又、又、又、又、

どろろづの物ぞそあづらみるこ
のんれおみーとさかいとめづ
いとわそーとほどの、棧敷不
るやうてさけの、物くひ、圍
て、棧敷もきくをおきたれ、
いよ時よおの、きまつ、
は、りりのほりて、たろぬ、
おーあいつ、一事も、
ありが、かりと物、
バ、又、又、又、又、又、又、

みんともなるべし。都の人を申しけり
いふやうにいとみづかき。いふは
づうへよたらおんれ。いふは
あーくもたがびか。いふは
くもあーなまなく。葵かけ
ーきに明はるれぬほど。志の
のゆーきをそれら。かれう
バ牛飼下部など。カ見え
き。いふは。いふは。いふは
あ。いふは。いふは。いふは

あなうもみあつる人もいづか
ほどなく。それよあちて。車
も。もみぬれ。すだれ。き
まへま。さび。いふは。い
思ひ。いふは。いふは。い
た。いふは。いふは。い
ふ人の。み。いふは。い
人数も。いふは。いふは。
せ。いふは。いふは。い
ほ。いふは。いふは。い

のゝ水をつれて、ほろきたをあげたるは、
たることさくまゝとらふも、おこたるまゝ
もちゆゝさかづけしきぬべし。都の中に、
人ききぬるは、あるべし。一日に、二人
のみあしんや。鳥部野船思しぬ野らよ、た
るさおほゆるはあれど、たぬはあ
されば、いつきまひさぐもの、つら
ほどあゝかゝきも、まゝし
たもいかもぬる、死期あり。く
けるを、ありがんき不思議あり。ま

どらに、思ひまんや。まへに、
双六の石も、つらめて、た
られんこと、いづれのい
へあて、いよつを、とめ
れぬとみれど、又、い
ゆくほろま、いづれもの
いくさ、ま、いづるも、死
をも、いづれ、力を、も
よハ、静かに、氷石を、も
きくと、思へら、ま、い

のよろづよ、もろもろみちるるやうに、いふに、いふに、いふに、
かゝいよの、よろづに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、
みて、舞下、に、た、い、く、い、く、い、く、い、く、い、く、い、く、い、く、
の、心、よ、あ、り、て、思、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
おの、た、め、妻、子、を、た、め、よ、い、恥、を、も、り、し、た、ぬ、ま、み、
ま、ま、つ、と、ま、ま、と、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
を、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
り、人、は、おの、産、ま、し、時、に、い、く、い、く、の、心、あ、い、い、い、い、い、
い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
て、凍、餓、の、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、

み、あ、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
法、を、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ら、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
か、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
が、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

● 人の終焉のありさまのいみじかり一筆あざ人の
のかゝるさまをくわたりて、いふに、いふに、いふに、
といふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、

やうくことある相をかちつけたいことば
も、ふるまいもだのれがこのむかひにほめあ
こそ、人の目ごろに本意もあつてやと
ゆれ、此大事ハ権化の人をもむべうと博
の士もはるべからずだのれなふところ
く、人の見聞よ、いふべうと。

○

能をつぐんともる人がくせうと経ハ、
いよ、人にまうれど、いふくあつて
一、出たところ、いふくあつて、い
ふれど、いふくあつて、いふくあつて

いよ、堅固か、ほめるより、よの中いま
りて、そのまわはるくも、はらむ、つれなく
ぎて、たうむ、人天性、其骨も、みちにな
づも、みぶりにせむ、て、年をおられ、堪
た、なま、ゆるより、ついで、よの位、い
徳、たけ、人よ、ゆえ、いふ、き、名を得る事
也。天下の物、れよ、まとい、ども、始めハ、不堪の
え、もあり、天下の、飛、も、あり、い、ども、其人、み
ち、れ、おきて、た、く、是、を、た、く、て、放、増、せ、ま
れ、は、ま、の、は、う、せ、ま、て、万、人、の、師、と、ま、る、こ、と、決、ま

和文

後朝朝臣の守り
書

此人の犬納言
為兼入道をぶ

かへるべし。

け人東寺の門に、雨やどりせしれをりたるに、か
たはものども、あつちありあつちが、も是もね
ちゆびみ、うらかちて、いづくもよぐに、こも
うあるをみて、とりぐにたぐいさきんせいのな
り。だ、愛もるにたれりと思ひて、まもちたといけ
るほど、よやうて、を真つきて、みよく、いづせく
ねぼええんば、たゞもほふめ、いづか、ぬも
のよ、いづと、思ひて、おちりて、のち、この間、う
きよまこのみて、ことやうに、曲折あるも、さあめ

て、目をより、いづば、いづめ、つる、かの、う、は、ぬ、を、
愛もる、あ、り、さ、め、と、真、ま、く、お、ち、え、ま、れ、バ、鉢、ま、り
あ、つ、れ、さ、る、ぬ、ども、み、ま、ほ、り、ま、て、ら、れ、ま、め、さ、
も、あ、り、ぬ、べ、き、こ、と、な、め、。

● 子に、い、づ、は、ん、人、の、先、づ、機、嫌、を、さ、つ、る、べ、い、づ、い
で、あ、い、き、事、の、人、の、身、ま、も、と、う、い、は、も、も、た、ご、い
て、其、事、あ、う、い、づ、や、う、の、ま、り、あ、い、を、こ、も、ろ、う、べ
き、也、但、一、病、を、う、け、子、う、み、死、ぬ、る、事、の、機、嫌、を、
け、り、づ、い、づ、い、づ、あ、い、づ、か、お、い、ま、あ、い、生、住、異
滅、の、う、た、り、か、は、ら、ま、こ、と、の、大、事、は、た、ま、き、川、の、

口入文井
040

みまきりもつらきことぞもていづれもたゞの心
に。たゞらにたゞの心ゆへものあり。れが真俗
よつて必はつらとげんと思はれんこと。機嫌
さしづゝとび。さかくのよら。あく是をふ
とびまききあり。春くれてのら。夏にや。なは
て。秋のくるよ。あ。も。春。や。て。夏。の。き。を
も。ほ。ら。る。あ。り。む。で。に。秋。か。さ。い。秋。の。き。あ。は
ら。と。む。く。あ。り。十月。の。ふ。春。の。天。草。草。も。あ。り。あ
り。接。も。つ。ば。ぬ。ぬ。あ。め。た。る。も。先。づ。お。ら。て。あ
ぐ。む。よ。あ。ら。び。下。より。き。づ。つ。は。る。に。た。へ。び

一てだつる。あ。り。び。あ。る。氣。下。に。ま。う。け。た。る。ぬ。よ
ら。と。ら。つ。い。で。甚。は。や。一。生。老。病。死。の。う。つ。り。き
た。る。事。又。是。よ。過。り。四。季。の。あ。り。ま。れ。つ
いで。あ。り。死。期。つ。い。で。き。ま。さ。び。死。の。あ。り。一
も。き。た。ら。む。が。は。て。う。ら。い。せ。ら。れ。り。人。の。あ。死
あ。る。こ。と。を。さ。し。づ。つ。こ。と。あ。ら。も。急。あ。ら。る
に。た。ば。え。ら。び。て。あ。る。沖。の。ひ。か。は。は。ら。あ。れ。と
も。残。り。潮。の。み。は。く。が。と。ら。ら。る。

● 春をよしの物か、れ、樂をよしの物か、春をよしの
と思ふ。盡をよしの酒をおもひ、さしづゝとび、
と。思。ふ。盡。を。よ。し。の。酒。を。お。も。ひ。さ。し。づ。づ。と。び。と。ら。ら。る。

うたんことをたす。心を必も事いおれてきた
る。かりとも不喜のたはれをさすべし。あ
うらやまの聖教の一句をいれんが何となく前後
の文も見ゆ。卒ふりて多年れ非をあらうたむる
こともあり。かりにいひま。此文をいりげしき
うばけ事をきんせ。これ則ちうらやまの益を
り。心さしよおころしむも。佛ありありて。さす
と。り。徑をとり。おこたる。うらやまも善業のつ
か。併せし。散乱の心さす。も。繩麻のせ。せ。バ
おぼえむ。して。禪定する。べし。事理もさす。二つ

あ。ど。外相。り。そ。む。り。が。れ。バ。内。證。必。熟。き。ま。ら
て。不。信。と。い。ふ。べ。か。ら。び。あ。ら。ざ。て。こ。れ。を。た。ふ。と
む。べし。

◎ 世の人あひあふ時。さす。くも。黙。止。する。こと。あ
し。必。し。ば。あり。こ。れ。を。さ。し。む。い。は。ほ。く。ハ。善。業。の
談。あり。世。間。の。浮。説。人。の。是。非。自。他。の。た。め。に。失。た
ほ。く。得。も。く。あ。り。こ。れ。を。か。ら。む。時。た。が。ひ。の。心。し。
善。業。の。事。あり。と。い。ふ。こ。と。さ。し。む。べし。

◎ 一道にたづなへる人。あ。ぬ。道。の。ひ。ろ。く。に。の。ぞ
み。て。あ。は。れ。む。道。あり。ま。り。か。ら。か。く。が。そ。に。み

侍らばものきとらひに思ふべし。人の心
とあれどいさなりくおぼゆるあり。さういぬみま
の、うらやましくおぼえはあまらうやま。あど
ら、あははざりんと、いいてありあん。我智をそ
りちて、人はあまらう、このあるもの、このを
かこふけ、牙あるもの、きばをかみいださるる
ひるり。くさして、善はほらうじ。物とあまら
ざるを、徳とを。他はまてる、このある、大なる
失るり。品のたうきよても、お譽のをうれたるよ
ても、先祖のほまれよても、人はまられりと、思へ

ふ人、たさひ、ことばよいで、こそいけ。ゆども
内心に、そこばくの、とが、あつ、い、み、て、これと
ら、さるべし。を、こよもみえ、人、も、い、け、れ、と
ごは、ひ、を、も、ま、なく、た、け、慢、心、ま、ち。一、道、も、
ま、こと、に、長、く、あ、る、人、に、み、づ、う、あ、ま、か、ま、其
非、を、さ、る、ゆ、あ、ま、ら、う、さ、う、い、ひ、み、た、ざ、り、て、
つ、ひ、ま、物、に、ほ、る、こと、あ、り。

④

年老いたる人も、一事にまがれたる、女のありて、
この人、れ、の、ち、よ、誰、も、さ、は、ん、ま、ど、い、け、れ、
ハ、老、れ、か、う、と、よ、て、い、け、れ、も、い、づ、ら、う、じ。

ことあれど、それをもたれたる、前のさまに、
 この事まで、くれよけりとは、さるく、みゆ、今、わ
 られよけりといひてありあへ。大か、さ、さ、
 りとも、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
 へ、あ、ぬ、よ、や、さ、き、さ、え、お、の、づ、
 考、ぬ、べ、さ、だ、か、ま、も、わ、き、ま、く、
 たる、の、程、ま、よ、い、み、ち、の、あ、
 へ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
 と、あ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
 と、あ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、

①

ことあり。用ありて、ひ、ち、り、と、も、
 くかへるべし。へ、く、お、ら、い、と、
 じ、う、い、れ、れ、こ、も、な、ほ、く、
 静、う、さ、ら、に、萬、の、こ、と、さ、
 い、の、た、め、益、さ、り、と、は、
 心、づ、き、ま、も、い、ち、ま、も、
 い、い、て、ん、だ、ま、い、に、
 の、つ、れ、ぐ、ま、さ、い、ま、
 どの、い、ま、さ、ら、の、こ、
 院、

性、スキ、ツ、ヤ、シ、

青き眼誰もあつては、
人のまゝりてのどろに物語とて語りぬら、
よ。又文も、
いおさせらるる、

墨

貝をたほぬ人の我まあるまづたき、
みまゝして人の油のうげいびの下までめまき
ぼるまに、
ふく、
ちよき、
るり、

いある石をまもつて、
もとまゝに、
トけ、
て、
清献、
と、
侍、
して、
めて、
て、

口入、

44

（墨）

醫書にいらるるがごとく。目のまへなる人の慈を
かめ、惠をばさるる。眼をばさるる。其化をば
くまらるる。ことごとく。馬のゆきて、三
苗を征せしむ。くまらるる。徳をばさるる。
まじりて。まじりて。

うらやみごのむ所が。にまじりて。色にかけ
り、情よめで、心をいそせよ。く。百平の力をあ
やまり、余をうらやみ。たれ。たれ。たれ。たれ。
のまじりて。いそ。いそ。いそ。いそ。いそ。いそ。
まじりて。まじりて。まじりて。まじりて。まじりて。
ぬるく。精神おとろ。あは。あは。あは。あは。
感。どう。どう。どう。どう。どう。どう。どう。どう。
益の。益の。益の。益の。益の。益の。益の。益の。
づ。づ。づ。づ。づ。づ。づ。づ。づ。づ。づ。づ。

とまよふまゝにいつ事、と云ふ一、と云ふは考へる
にまゝにいつ事と。

小野小町が事、まはめてと云ふは、うあ、うあ、うあ、
たるさま、玉造といふ文に、みえたり。け文、清
がかけめと、いふ説あれど、高野大師のほ、他の目
録、いなり。大師、義和のは、めよ、か、られたま
へり。小野がさ、かりあふこと、そのうち、れ、こと、も、
ぞ、おぼつ、こと。

小鷹によき犬、た、ら、に、つ、い、ぬ、れ、が、ぶ、
ろく、なる、といふ。犬、よ、つき、ふ、さ、ま、つ、く、

ま、い、と、い、つ、う、あ、ち、入、事、た、は、い、る、中、に、
一、ま、い、り、義、味、ぶ、ら、ま、い、り、ま、い、り、
た、び、道、を、聞、て、こ、し、よ、こ、ら、り、
と、あ、る、人、と、い、ふ、も、も、か、一、こ、き、犬、の、こ、ろ、
と、い、ふ、也。

世、よ、ら、い、ら、ぬ、こ、の、た、は、い、る、
た、ま、ま、づ、酒、を、ま、い、り、ま、い、り、
ほ、い、と、た、い、ら、い、ら、ぬ、
ほ、い、と、た、い、ら、い、ら、ぬ、

てきてとこしにばしとあつたまゝのしよひかた
 どめてすゝりいのもせしてしんじふとていへん
 たらふらに狂人とあつてまゝにちまへく息災な
 る人もあつたまゝに大事の病者とあつてあはれも
 せしむるまゝにしてあつたまゝにあつたまゝ
 ーかりぬへーあつたまゝに頭をく物くは
 にしよひよーあつたまゝにあつたまゝに暗い
 ことあつたまゝにあつたまゝに大事あつたま
 てもつゝいとあつたまゝにあつたまゝに
 ことあつたまゝに礼儀もあつたまゝにあつたま

きめよあひたつて人ねたて口きとあつたま
 らんね人の國にかくるあつたまゝにあつたま
 らにあつたまゝに大事あつたまゝにあつたま
 よーあつたまゝにあつたまゝにあつたま
 心うーあつたまゝにあつたまゝにあつたま
 だもあつたまゝにあつたまゝにあつたま
 ぼろーあつたまゝにあつたまゝにあつたま
 よういあつたまゝにあつたまゝにあつたま
 いいたひかゝばれらあつたまゝにあつたま
 びかぼろあつたまゝにあつたまゝにあつたま

りつきよかりぬ人さあなをてらちいさ
あてみづうもくいふらあなをてらちいさ
出いて各うたひまひ年老いふ法師めー出て
れてくろくきいたあきかぬぎて目もあて
られぬすぢかりんを興へみる人さあなを
くまうーあるまいふさあなをてらちいさ
たはういたくいひきさあなをてらちいさ
まの人りのりあひいさかひてあなをてらちいさ
ろー恥ぶまーく心うき事のとありてはていゆ
うさぬ物どもばーとりて椽よりおら馬車より

おちてあやまちーつ。物よものらぬきはく大
きぶらばいゆきてついでいぢ門の下まどにむき
てえもいはぬ事ども志ちらうー年老いけさか
けける法師の小童れかさをたさうて問えぬこ
とごもいいつくよらめきたるいとらなゆーか
うらこととせーてもせ世も後の世も益あふら
もさあうーばいさうせし。この世よあやまち
おほく財きうーなし病をまうく百薬の長と
いへど業の病酒よりこそおられたうれくさわ
さふとくさういふ人ぞ世にうらなひを

思ひ出でなくめる。ほのせは人の智恵をうりか
い善根をやくこと大のごとくして悪をまよ
ろづの戒を破りて地獄よたつべし。酒をとりて
人よのませたる人五百まが間もあまものいよ
ことこそ佛に説きたまはれしがくろくさまと
およものあらんぞあつてうりまてかへさまを
もあるべし。月の夜雪のあつた露のものとよても
心のとやかよ物語して盃をうらぶろづの眞
まぞあつわがまかりつれはさる日だぬいの外
よなの人まてなちおこあひかへまはるるまむ

まらぐーかぬあひりのみまのうらぶあはく
だものみまあひまあひまあひまあひまあひま
いだそれらいつと。みせはまあまてあまて
物いりあまてつだてあまあまあまあまあま
おほくのこたふいとたふ。たじのかりあ野山
あまあまあまあまあま何ぞあまあまあまあま
よてのみらまたあまあまあまあまあまあま
らしてまらあのみたるまらあまあまあまあま
りあまてあまあまあまあまあまあまあま
せらあまあまあまあまあまあまあまあまあま

いししとあれぬ。女うら。おら。せ。上戸
かた。うら。うら。みゆ。い。い。の。ま。あ。い。た
びに。あ。さ。う。た。る。お。ま。の。ひ。ま。あ。た。ん。に
ま。と。い。て。ほ。れ。た。ん。お。ま。の。ま。あ。い。た
さ。う。ち。物。ま。あ。い。た。お。ま。の。ま。あ。い。た
て。よ。づ。か。い。さ。り。ま。あ。い。た。う。ら。ま。あ。い。た
る。ほ。そ。げ。ぎ。の。ほ。ご。お。う。ら。ま。あ。い。た
⑧ 鐘倉中書王とて、御翰ありくるに、あめありては、
いまど、庭のかき、ざりうれづい、うせんと、ま
たありくるに、佐くは隠はく、庭のこま、あ、よくづ

を、車につみて、おほく、翠りたる、うれ、が、一度、よ、出
かれて、泥土の、ま、づ、い、あ、う、ら、ま、あ、い、た
ん、用意ありが、た、う、ら、ま、あ、い、た、吉田中納言、か、ま、
あるもの、う、ら、ま、あ、い、た、吉田中納言、か、ま、
き、ま、あ、い、た、う、ら、ま、あ、い、た、の、た、り、い、た
り、か、ま、あ、い、た、う、ら、ま、あ、い、た、の、ま、あ、い、た
こ、ま、あ、い、た、う、ら、ま、あ、い、た、の、ま、あ、い、た、庭
の、儀、を、奉、り、ま、あ、い、た、の、ま、あ、い、た、
故、実、あり、ま、あ、い、た。
⑨ 或、それ、さ、う、い、ども、内侍、お、の、神、樂、を、み、て、入

〇一七

よかいらとて賢敏を其入道もたらたまふるま
どしつゝまことてうらまゐる女房のまゝに別殿の
行幸よ書佛座の御観をよきあれとまのい
やうにいひまういよくかりきその入道もま
典侍もりけることわ。

墨

相模守時頼の母は下禪尼とて中なる守ま
れやさる事ありまふもけたるあまのりさ
うドのやがればよりを禪尼まづうぶカ
まりまはつはれまはせうとわ城分義
景まのけいめいしていひまらぶ給はりて

ふまが男にはいせいとん。まやうの事に心得
する者まいとまそれれれ其男尼が細工いよ
もまより侍らドとて程一間づはれまらと
義景まをほりめいといはんはるかまやま
くいへ。ままういひもみまらうわとわ
てやそれれが尼もほまはくとほりか入
とれまうまひまぼりまらとかくてある
べきあり物ハ破れたるあはれを修理して用
事ぞとままき人まみまはせてはつんた
めまらとまらいとありかまらまら。

いひけれびきりてまゝに説經師よきんた
めよ、先づ馬に乗るゝしるす。輿車もぬめの導
師は講ぜしけん時馬をさびさへよ、たせたるん
よ、もいぢりもて、おらまをいひさるべしと思
ひけり。次は佛事の後酒をさびせしむることあり
んよ、法師の、臺下に能きき、檀那、もさまぐりて
もよべしとて、早寄のいひことなすしるす。ふ
とたのいひさ、やしとていひよ入るればいひさるよ
くしとくはほえて、たしとみくるほがに説經な
らふべきいひまゝとて、年よりいひさる。け法師のみ

よもあしを世間の人さべてこのことあり。わら
きほ、諸事につけて、力をたて、大なるみちをも
成し、能をもつぎ、學問をもせん、と、行来いさく
あし、まはしことごと、いひさるかけあぐる、世をのぞ
ふに思ひて、うらおこなりつゝ、まづさしあし
たる、目のあはしこと、いのみまぎして、月日をた
れ、たことごと、なす事なぐりて、男は老ぬつひよ、
物の上手にもなす。思ひしやうに、力をもちた
む。くゆれども、さわかへし、さし、齢あしね、は
りて、垣をさぐる、輪のいひさる、いたしうへゆくさ

此は一日のうちに、何事をも成し遂げしむる事の中
中に、一日のうちに、何事をも成し遂げしむる事の中
の中に、一日のうちに、何事をも成し遂げしむる事の中
の中に、一日のうちに、何事をも成し遂げしむる事の中
の中に、一日のうちに、何事をも成し遂げしむる事の中
の中に、一日のうちに、何事をも成し遂げしむる事の中
の中に、一日のうちに、何事をも成し遂げしむる事の中
の中に、一日のうちに、何事をも成し遂げしむる事の中
の中に、一日のうちに、何事をも成し遂げしむる事の中
の中に、一日のうちに、何事をも成し遂げしむる事の中

を、十一の石より、十一の石より、十一の石より、十
て、十一の石より、十一の石より、十一の石より、十
ら、十一の石より、十一の石より、十一の石より、十
を、十一の石より、十一の石より、十一の石より、十
く、十一の石より、十一の石より、十一の石より、十
よ、十一の石より、十一の石より、十一の石より、十
よ、十一の石より、十一の石より、十一の石より、十
ま、十一の石より、十一の石より、十一の石より、十
を、十一の石より、十一の石より、十一の石より、十
あり、十一の石より、十一の石より、十一の石より、十

ん。日をさしぬことあるが、西山の事、ついで
又こそたせいたしめと思ふ故に、一時の懈怠も
なほち一生の懈怠となる。是をたそるべし。一事
を必ざらんとせば、他の事は破るべし。一事を
いそむべし。人の朝をも恥べし。事、
かへぎて、一の大事なるべし。人、
考へて中まであるもの、まじかひのまじかひを
のまじかひをいふ事あり。いふべし。聖賢こと
まつたし。つたりたりと。登壇法師と
のまじに侍りたるがまじ。雨のふりたるよ。みの

か。やあるか。たまへか。のまじかひのことあり
いよ。まじかひのまじかひのまじかひ。まじかひ
いよ。まじかひのまじかひ。まじかひ。まじかひ
そと。人のいひまじかひ。まじかひ。まじかひ
物。人の命。雨のまじかひ。まじかひ。まじかひ
我もまじかひ。まじかひ。まじかひ。まじかひ
とて。まじかひ。まじかひ。まじかひ。まじかひ
中。つたへし。まじかひ。まじかひ。まじかひ
れ。まじかひ。まじかひ。まじかひ。まじかひ
侍りたる。まじかひ。まじかひ。まじかひ。まじかひ

朱子集義卷之二十一

らに、一大事因縁をぞたゆまざりし。

聖

今日の事とぞ思ふが、あまのふりかへて
つとめもなれしを、まづ人にまはせしめて
たのめぬ人のきさなり。たのみたふかひの
ういて思ふぬ道は、まはさぬ。
はしりたる事、まはさぬ。まはさぬ。
いはしむ。まはさぬ。まはさぬ。
生の間も、まはさぬ。まはさぬ。
いゆるを、まはさぬ。まはさぬ。

聖

あれは、まはさぬ。まはさぬ。まはさぬ。
えぬのみ、まはさぬ。まはさぬ。
夜より、物のほえさるる。まはさぬ。
葉は物のきさなり。まはさぬ。
たまたま、まはさぬ。まはさぬ。
も、あきらまぬ。まはさぬ。
うぞく、まはさぬ。まはさぬ。
よき、まはさぬ。まはさぬ。
用意ある心よ。まはさぬ。
まはさぬ。まはさぬ。まはさぬ。

と思いでいふまにふ〜〜〜
にふ〜信もあ〜〜〜
心得きあふ人又何と〜もあは〜
けぬ人あり又〜〜
たのむもあ〜
る人あり又ま〜
ふ事〜
又〜
うらぬ人あり又推〜
思

い〜
あり。又〜
て〜
い〜
らぬ人と同一〜
との本意をば〜
ふ〜
か〜
よ〜
可謂よ〜

一。まゝてあつてゐるものまゝに
をみんことたふごうのうへは物をみんごご
と。但やうの行はうりよて佛法までを
むくへいふべきよのあつて。

④

徳大寺右大臣殿、檢非違使の別當の時、中門よて、
使廳の評定おこるはれけるほどに、官人章兼が
牛はるれて、廳のうらへ入て、大理の坐れば、まゆ
のうへよのぼりて、まれうらかみて、みり
くわ。たもき、恠異なりとて、牛を、陰陽師のもとへ
つうはむべきなり。各申ふるを、父の相國き、給

④

いて牛の分別を。是あれが、いづくへらのぼり
ごん。冠弱の官人たもく、出はの、微牛を
るべきやうなりとて、牛をばまにかへて、ふ
たうけるた、みまをかへられまらり。あへて、凶
事ありまらるん。あやみまみて、あやま
ごん。まきり、あやみ、うらておづるといへり。
龜山殿たてられんとて、地をひられけるよ、大き
さうく、まは、敷もまらごりありあつたりたる塚
ありたり。此存り、神ありといひて、このうらを
ゆくれ、いづるべきと、勅問ありたるに、

くふりこの地をさしあふる物さしあふる物さしあふる物
さしてられがしとみなくやせれさるるものた
とぐ一入王まよきし皇居をたてられんよ
何のたしりをもあもむき鬼神の物ありとむ
べうらびのみを掘もつべうらびをたたりえれ
バ塚をくづりて蛇をば大井川よあづりてけり
さしあふる物さしあふる物さしあふる物

①
人の田を論じむものうたよまけてねたむら
それ田をかりてされとて入をいふとさるるよ
先づみちをがしの田をさくかりもてゆくとす

ハ論じたまふ事ありしむらさきとせりい
えれバかきものどもを死なせむかきこと
よりあむれば何事せんともかき事なれん
づくをさかきとぞいひるることさか
とおしかりえり。

②
萬の事ハたのむべうらびおろさるる人さしあ
くものさたのむらびをさしあふる物さしあふる物
いさほいありとてたのむらびをさしあふる物
先ほろぶ野おまよとたのむらびをさしあふる物
に失ひやせむとあちとてたのむらびをさしあふる物

時よあはれ。徳ありて、たのびづからむ。顔田も不幸ありき。君の寵をも頼むべし。謀きりたる事、もみやりあり。奴もつらかりて、たのびづからむ。しきほふる事あり。人の志をも頼むべし。必やむ。約をもたのびづからむ。信ある事、もみやり。力を人ももたぬ。れば、是もあつ時。はらりこび。非あつとき、まうみだ。左若いろければ、さほれ。最後とほるれば、まがせ。せば、き時、いげ。心を用心する事、もみやり。まうし。まうし。物よまうし。あはれ。して、

ぶる。ゆりく。てやほ。うなる。す。一毛も損せぬ。人の天地の靈あり。天地のかぎる。ある。人の性、なんぞことある。寛大にして、まはら。う。う。と。き。の。喜。怒。是。に。ま。は。ら。う。て。物。の。た。め。に。ま。う。ら。は。れ。

●

想失意と。いふ。樂ハ、女をよこさる。故の、名。ハ、あ。い。む。も。と。と。相府連、文字のか。う。へ。る。あり。晋の王儉、大臣として、家に、はら。も。ま。う。あ。つて、愛。を。よ。こ。さ。れ。樂。あり。是より、大臣を、連府と。いふ。烟、忽も、廻鶻あり。廻鶻國とて、えび。の。こ。は。ま。國。あり。其

夷漢ニ伏してのちに、来りてたのれが國の行く
を、奏せしむる也。

● 後鳥羽院の時、信濃前司行長、秘昔古のほまれ者
けり。が、樂府の時、論義の番にめされ、七徳の舞
を、よらうとせられたり。れば、五徳冠者と、異名を
つきよとせしむる也。心うきことありて、學問をもて、
遁世たり。うらむを、慈鎮和尚、一巻あるものを、
下部までも、めりおきて、不便とせしむる也。たゞいけ
まば、信濃入道、扶持したるいなり。げ、乃ち入
道、平家物語をつくりて、生佛といひける。盲目と

を、一へて、かきしむる也。さて、心門の事、いかに
ゆ、一くかけり。九郎判官の事、いかに、一とせり
て、かきのせり。蒲冠者の事、いかに、一とせり。け
らう也。おほくの事、どもを、きくも、一とせり。武士
の事、弓馬の事、いかに、生佛、系玉のもの、とて、武士に
といき、一て、か、せけり。彼生佛、が、まじり、まのこ
ゑも、今の深田法師、が、まじり、たふさつ。

● ともべて、人の、無智、無能、なる、べきもの、たなり。ある、人
の子、れ、み、ご、ま、る、ご、あ、か、し、む、が、が、父、の、ま、り、と、人
と、もの、い、よ、り、て、史、書、の、文、を、い、ま、さ、り、と、い、ふ、

くハ同サーのとも尊者のまへてハハハハハハ
もとたはまアアアあり。

又ある人のともして、深淵法師の物語をきか
ると、いはいはまアアアアアアのいよつおち
たりーらアアアアアアアアアアアアアアアア
中にあーかアアアアアアアアアアアアアア
ありちまアアアアアアアアアアアアアアア
はまどいくにこそ、まアアア法師のいはいは、其
も及ぶぬことあり。道い心得るるアアアアア
たはアアアアアアアアアアアアアアアアア

おアアアアアアアアアアアアアアアアア
ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
ゆアアアアア。

萬のともアアアアアアアアアアアアアアア
アアアアアアアアアアアアアアアアアアア
アアアア。男女老若アアアアアアアアアアア
アアアアアアアアアアアアアアアアアアア
ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
アアアアアアアアアアアアアアアアアアア
アアアアアアアアアアアアアアアアアアア

ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

人々の物をもくわんめいじしんきんをかせりてその
まじりてはるひのちをかせりてはるひのちをかせりて
かせりてはるひのちをかせりてはるひのちをかせりて
かせりてはるひのちをかせりてはるひのちをかせりて
かせりてはるひのちをかせりてはるひのちをかせりて
かせりてはるひのちをかせりてはるひのちをかせりて
かせりてはるひのちをかせりてはるひのちをかせりて
かせりてはるひのちをかせりてはるひのちをかせりて
かせりてはるひのちをかせりてはるひのちをかせりて
かせりてはるひのちをかせりてはるひのちをかせりて
かせりてはるひのちをかせりてはるひのちをかせりて

1

●

りあるものもくわんめいじしんきんをかせりてその
もあれはるひのちをかせりてはるひのちをかせりて
らんあーはるひのちをかせりてはるひのちをかせりて
れぬ人のあつてはるひのちをかせりてはるひのちをかせりて
主ある家よりかせりてはるひのちをかせりてはるひのちをかせりて
事ある。あつてはるひのちをかせりてはるひのちをかせりて
いり、狐ふくろふかりの物も人けよせられぬが
所えがほまじりてはるひのちをかせりてはるひのちをかせりて
ぬかひらもあつてはるひのちをかせりてはるひのちをかせりて
なき故はるひのちをかせりてはるひのちをかせりてはるひのちをかせりて

和文教科書二之卷終

和文第壹帙第貳帙

明治十九年四月九日版權免許

第壹帙定價金五十錢

同年同月十三日版權讓受御屆

第二帙定價金五十錢

同年同月出版

第三帙定價金五十錢

同二十一年十一月十六日訂正印刷再版

第四帙定價金五十錢
第五帙近刻

編者 下田歌子

東京四谷區尾張町九番地

發行兼
印刷者

宮川保全



東京日本橋區通塩町八番地



發行所

中央堂

右同所